<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>国語科教育法Ⅱ</td><td>教員名</td><td>中村佳文</td><td rowspan="3">免許・資格との関係</td><td>小学校教諭</td><td>選択必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>担当形態</td><td>単独</td><td>こども音楽療育士</td><td></td></tr>
<tr><td>科目番号</td><td>SID302</td><td rowspan="2">配当年次</td><td rowspan="2">３年後期</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>小幼コース</td><td>選択必修</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>２単位</td><td>幼保コース</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める科目区分又は事項等</td><td colspan="6">各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</td></tr>
<tr><td>一般目標</td><td colspan="6">教材研究能力を培うために、主として教科書の詩歌・文学的文章・説明的文章を対象とし、教材として活かすための基本的な読解について学ぶ。教材研究の力を基礎に据えつつ、個人及びグループにより授業で学習者のどんな力を育むか分析検討を進める。また指導案の書き方やワークシートの作成などを通して、模擬授業が実践できる力を養う。
(1)国語科の目標及び内容
学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解し、実践に活かせる能力。
(2)国語科の指導方法と授業設計
基礎的な学習指導方法を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と実践力をを身に付ける。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">(1)国語科の目標及び内容
1)学習指導要領における国語科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
3)国語科の学習評価の考え方を理解している。
4)国語科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
(2)国語科の指導方法と授業設計
1)学習者の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
2)国語科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
3)学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
4)模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</td></tr>
<tr><td>授業の概要</td><td colspan="6">国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導方法を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
各学年の詩歌・文学的文章教材・説明的文章教材の中から幾つかを対象として取り上げ、具体的に分析を行うことで教材研究能力を培う。また教材開発、授業設計、模擬授業により授業実践能力を培う。まず、各教材が該当学年また６年間のなかでどのような系統のもとに位置づけられているかを確認し、教材が単独に設定されているわけではないことを理解する。対比構造など「読み取るための基本的な読解の視点」を学び、それを応用して教材分析を行う。文学読解理論についても学習し、その観点から教材を分析検討する。教材開発は個人及びグループ研究とし、授業設計、指導案の作成、模擬授業を行う。アクティブラーニングとして個別の質疑応答、対話型講義、グループでの討議・発表等を取入れる。</td></tr>
<tr><td>ディプロマ・ポリシーとの関係</td><td colspan="6">本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「５.教育実践力を身につけている」「６.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">【第１回】短歌は「国語」の基礎基本
短歌を教材として、学習指導要領にある「目標」について具体的に考える。「教材を学ぶ」のではなく「教材で学ぶ」ことで、学習者がどんな力を育むことができるかを指導者として理解する。
（目標(1)-1),2）,(2)-1),2)）</td></tr>
</table>

	【第２回】創作学習を指導するための体験としての学び 学習指導要領に示された「思考力・想像力・表現力」を育むために重視される創作学習について、体験としての学びを実践する。著名な現代短歌を教材に自ら創作を体験し指導力へと結びつける。（目標(1)-1),2）,(2)-1),2)) 【第3回】主体的・対話的な深い学びを実現するために 各自が創作した短歌を受講者間において無記名で批評し、個別最適な学びとともに読解の多様性を体験することで、「主体的・対話的な深い学び」を作るための基本的な指導者としての姿勢を身につける。（目標(1)-1),2）,3),(2)-1),2)) 【第4回】授業は教材研究の深さの上に成り立つ 教材「ごんぎつね」を音読などの言語活動を通して場面を理解し、登場人物の心情・行動を構造分析に沿って把握し結末への経緯をとらえる。一連の過程が「ごんぎつね」の授業実践につながることを理解する。（目標(1)-2),4)　(2)-1),2)) 【第5回】物語を読むためのカギ① 物語の読みは、必ずしも一つの読み・解釈に収斂するものではないことを「ごんぎつね」を読むためのカギを通して学ぶ。また、それが「思考力・判断力・表現力等」の形成へと繋がることを理解する。（目標(1)-2）,4),(2)-1),2)) 【第6回】物語を読むためのカギ② 前回に引き続き「ごんぎつね」を通して、物語（文学作品）には様々な読むためのカギがあることを知る。特に「視点」「語り手」「対比」など基本的な理論について理解する。（目標(1)-2),4),(2)-1),2)) 【第7回】説明的文章の教材研究 説明的文章「どうぶつの赤ちゃん」の構成を分析し、どのような教材研究が授業構成や評価に活かされるかを理解する。（目標(1)-3）,4),(2)-1),2）3),4)) 【第8回】説明的文章の比べ読み 小学校教科書に掲載の説明的文章を発達段階に応じて比べ読みし、言語活動や評価をどのように発展的に授業構成したらよいか、ワークシートの作成等を通して実践的に理解する。（目標(1)-3）,4),(2)-2),3),4)) 【第9回】詩教材の音読・群読による学習① 詩教材を「音読」により理解を深め、「群読」という方法を活用して読みを深める方法を実践的に体験し、自らも良き朗読者となることを目指す。（目標(1)-3）,4),(2)-2),3),4)) 【第10回】詩教材の音読・群読による学習② 詩教材の「群読」作品を発表し合うことで学習過程や評価について意識し、表現活動が教材の読みの深さにつながることを体験的に理解する。（目標(1)-3）,4),(2)-2),3),4)) 【第11回】学習指導案作成１（Ａ・Ｂ・Ｃグループ） 各グループで共同研究により教材分析を行い、指導案を作成する。時間の関係で教材は「短歌」とする。（目標(1)-3),(2)-2),3)) 【第12回】学習指導案作成２（Ａ・Ｂ・Ｃグループ） 各グループで共同研究により教材分析を行い、指導案を作成する。時間の関係で教材は「短歌」とする。（目標(1)-3),(2)-2),3)) 【第13回】模擬授業（Ａグループ） Ａグループの模擬授業を行う。授業後、質疑応答。指導案の検討。（目標(1)-3),(2)-2),4)) 【第14回】模擬授業（Ｂグループ） Ｂグループの模擬授業を行う。授業後、質疑応答。指導案の検討。（目標(1)-3),(2)-2),4)) 【第15回】模擬授業（Ｃグループ） Ｃグループの模擬授業を行う。授業後、質疑応答。指導案の検討。（目標(1)-3),(2)-2),4)) 期末レポート
学生に対する評価	授業中の活動50%、期末レポート50%で評価を行う。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。

	・コメントを記載して返却する。 ・授業において口頭で行う。 ・答案例を授業中に評価する。
時間外の学習について	（事前・事後学習として週４時間以上行うこと。） 講義内容について自分なりに整理し直し、次回授業までに完全に理解しておくこと。
テキスト	『新たな時代を創る　小学校　国語科教育研究』東洋館出版社　2019
参考書・参考資料等	『小学校学習指導要領（最新版)』、『小学校学習指導要領（最新版）解説　国語編』
担当者からのメッセージ	楽しい国語の授業づくりができるようになりますように。
オフィスアワー	授業の前後の時間。